

印南町の観光

印南町は、和歌山県日高郡の中部に位置し、海岸沿いの国道42号線一帯は温暖な気候に恵まれ、ミニトマト・西瓜・キヌサヤエンドウ・ウスイエンドウなどの野菜、スターチス・カスミソウ・カーネーションなどの花類の特産地を成している。また、ワサビの最高品種といわれる真妻ワサビの発祥の地でもある。

海岸線は印南港、切目大浜、切目崎と変化に富み、船釣り、磯釣りの絶好地として、京阪神はじめ各地から多くの人々が訪れている。

海岸線から山間部に入ると、切目川、印南川に沿って昔から数々の歴史や伝説が伝えられ、中世から行われてきた熊野詣での道が町を横切り、今もなお津井・斑鳩・切目・中山の各王子跡はそのおもかげをとどめている。

果樹や花卉栽培の盛んな切目川沿いをたどると、古くからあつい信仰と物語に伝えられてきたほこらが点在し、その霊験はいまや都会の人々にとっても心のよりどころとして親しまれ、参詣する人があとをたたない。

また印南川沿いには、鯉節のルーツとして有名な「角屋甚太郎」をまつる印定寺や小栗判官照手姫の物語が伝えられる東光寺、紀伊国十三仏霊場第十三番の札所として知られる瀧法寺などがあり、のどかな田園の道を数々の伝説やいわれを訪ねて歩く絶好の一日巡拝コースになっている。

印南町ふるさと歳時記

■みどころ

印南港、印南漁民顕彰碑、風早海岸、切目川、切目大浜、狼煙山、切目崎、切目川ダム、いなみカントリークラブフジ、ラ・グレースゴルフ倶楽部、紀南カントリークラブ

▼歴史の道「熊野古道」

津井王子跡（叶王子）、斑鳩王子跡（富王子）、切部王子跡（切目王子）、中山王子跡

▼文化財

印定寺、東光寺、川又観音、瀧法寺、名杭の十一面観音、切目崎の古墳群等

■特産物

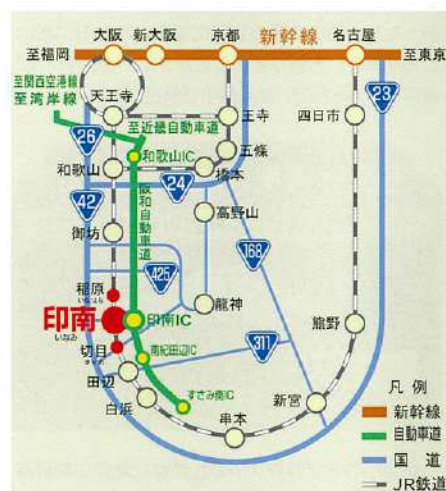
西瓜、えんどう、ミニトマト、花卉（キク、千両、かすみ草、スターチス等）、ワサビ

■海産物

伊勢えび、あわび、とこぶし、鮮魚、イサギ

■土産物

梅干、なんば焼、ごぼう巻、めざし、平五ようかん、清酒霧島、かえるまんじゅう、ダルマ醤油



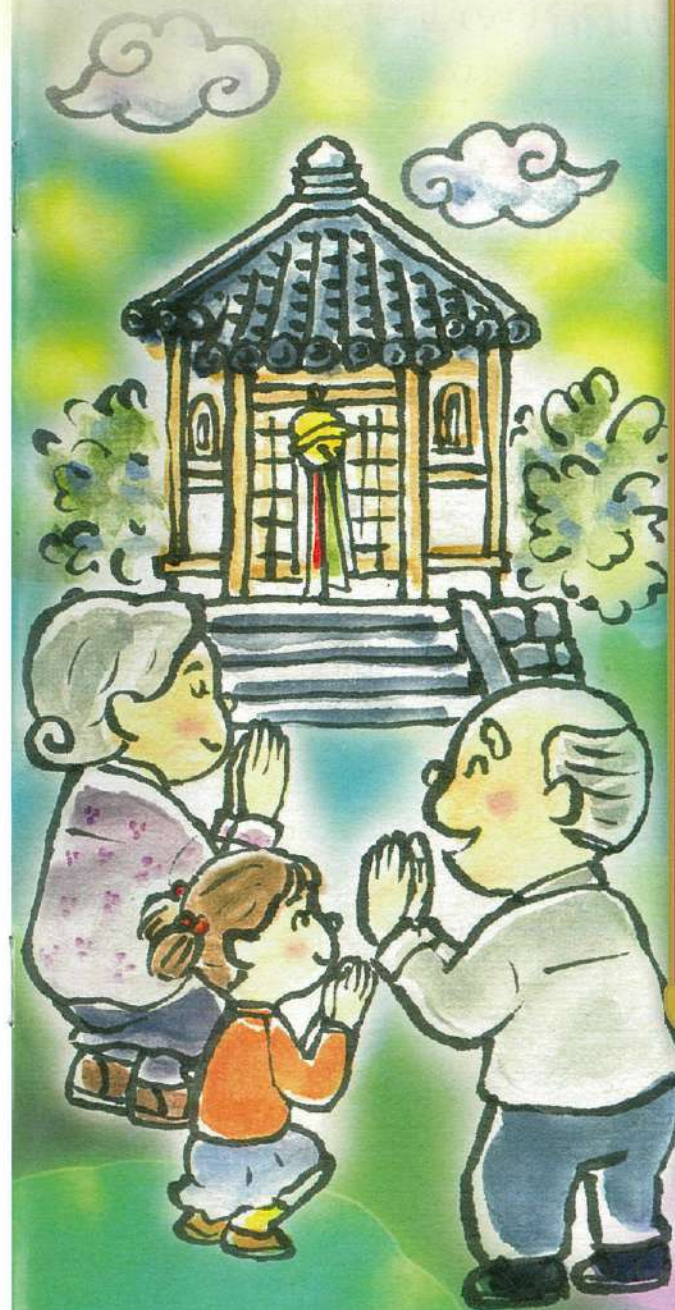
お問い合わせは… 印南町・印南町観光協会

〒649-1534 和歌山県日高郡印南町印南2570

TEL0738-42-1737 (直通) FAX0738-42-1703

ホームページアドレス <http://www.town.wakayama-inami.lg.jp/>

紀州日高路 印南 いなみ ふるさと参詣りコース



素朴な里人が守り継ぐ
民俗信仰の伝説を訪ねて
心安らぐお詣りを。

印南町 ふるさとお詣りコース

印南川沿いの いわれを訪ねて

信心深い人々が守り続けてくれている心やすらぐお詣りの里へ…

印南町はやさしさをもった町である。古いものがしっとりとした風情で町にとけこみ、素朴な姿で、今に息づいている。

その一つ一つを訪ねみると人間の限らないあたたかさが伝わってくる。

わけでも切目川沿いに南北朝時代の護良親王の苦途の足跡は数多くの伝説を残し、霊験ありと信じられるところが点在し、美しい自然と素朴な里人の心の中に生きて人々に安らぎをあたえている。



ガイドマップ



印南・稲原エリア……p.3～p.6

町内海岸部から御坊市に面した地域で、役場・かえる橋など印南町の中心部になっています。

東光寺→印定寺→せきの地藏さん→山口観音→瀧法寺→白河の観音さん→南谷の子授け地藏さん→南谷の腰切地藏さん→白蛇大明神・白玉大明神

切目・切目川エリア……p.7～p.10



海岸部から中山間にかけての地域で、切目神社やお詣り信仰の多い地域になっています。

うまべの地藏さん→亀の地藏さん→切目崎の竜宮さん→足の宮さん→名杭の十一面観音さん→名杭・足神さん→すえの千手観音さん→玉の権現・安産の神様→乳の地藏さん→イボ薬師さん→夜泣き地藏さん→こんにやく地藏さん→歯痛の神さん→夜泣き地藏さん→秋葉山の火伏せ不動さん

真妻・切目川エリア……p.11～p.14



印南町の山間部です。切目川ダムや川又観音など緑を満喫できる癒しの地域です。

歯の観音さん→子授け地藏さん→室川の観音さん→おつぽさん→才の川の観音さん→ほろし神さん→腰神さん→西神ノ川のお薬師さん→上洞の足神さん→川又の観音さん

印南川沿いのお詣りコース

印南町内に伝わる「愛伝説」の舞台になる瀧法寺・東光寺・印定寺のある地域です。「聖の君と瀧姫」「小栗判官と照手姫」「角屋与一とサナ」三愛の伝説が残る三寺。依頼すれば語り部や住職さんがお話を聞かせてくれる。腰や子授け、せきの地蔵さんなども信仰されている。



A1 東光寺

JRR印南駅下車 徒歩10分



室町時代、明秀光雲上人により浄土宗に改宗された。

境内には、県内でも数少ない鎌倉時代の宝篋印塔がある。特に薬師堂には、薬師様の子供にいらして病禍を免れると言う信仰があり和尚さんに、名前を授かる風習がある。

「波荒き印南の浦に今も尚、病みぬる人を救うみ仏」と御詠歌に歌われ、御堂の梁に「医王堂」と木彫された額が掲げられている。また小栗判官と照手姫が、熊野に向う道中、東光寺に逗留、薬師のお告げによって、枇杷湯で湯治したという伝説が伝わる。[印南愛物語]の一つ。

境内のナギの木は、県下2番目の古いもの。また観音堂には、漁船をとりまく33体の仏像、船観音が奉られ漁師の豊漁と安全を護ると信仰されている。

A2 印定寺

JRR印南駅下車 徒歩5分



もと真言宗で弘誓寺と称したこの寺は、慶長年間知恩院の満譽僧上により浄土宗に改宗された。またこの寺には、江戸時代カツオ節を考案した角屋甚太郎の位牌が奉られている。

慶長の頃遠く、九州・四国に出漁した印南漁民は、土佐清水市の沖にカツオの漁場を発見し、以来毎年10ヶ月間足摺岬の各地に留ってカツオ節を製

造した。この寺の観音堂は、そんな漁民の豊漁と旅漁の安全を願った当時の船主の建立によるもの。また、甚太郎の子孫、甚三郎の一人息子と市と奉行人オサナの悲恋物語があり、二人を供養する比翼塚がある。[印南愛物語]の一つとしても広く知られる。

A3 せきの地蔵さん

JRR印南駅下車 徒歩20分 車で5分



「せき地蔵尊」は、山口観音で知られる仙光寺の境内に鎮座され首から上の病氣にご利益があるとか。特にその名のように咳に効くとあって近郷の人々から尊崇されている。旧山口小学校に近い印南川の淵辺に祀っていたものを移した。

春の地蔵尊会式には、餅ならぬおにぎりとお菓子を参拝者にふるまう一風変わった会式で知られる。地元住民が1戸当たり米5合の割合で金品を出し合い、お地蔵さまをお慰めるのである。戦時の食糧難時代は米不足で中断したことがあるが、戦後間もなく復活、習わしは今も変わらず土地の人たちによって続けられている。



A4 山口 観音

JR印南駅下車 徒歩20分 車で5分



仙光寺の境内に、中央作風の立派な聖観音像が祀られている。南朝の武士が此の地に落ちのび草庵を営み、観世音菩薩を安置したと伝承され、初午の会式に多くの信者がお膳を供え厄餅を各自で撒く風習が今も行なわれている。

A5 瀧法寺 (おたきさん)

JR稲原駅下車 車で5分



天智天皇勅願宝参り霊場、十三佛虚空蔵尊宝大師霊場、紀伊之國十三佛霊場第十三番の札所として霊験あらたかなこの寺は、里人から「おたきさん」と呼ばれている。

1.弘仁元年春(810) 弘法大師は、この地で御修法されたと言われる。

産土大神として伊奈瀧大権現を奉祀され「村祭」も正徳年間(1715)の頃まで執行された。

1.鎌倉時代中期(1265) 実伊上人が中興されたと伝わり、紀南地区の高野山関係寺院の本山となり明治5年まで日高郡内「神宮寺」の本山でもあった。

1.湯川直春一族の信仰と戦略によって相応の隆昌あるも天正13年(1585)豊臣軍の焼討ちに遭遇、現在の寺域は元々奥之院である。

1.徳川頼宣(南龍公)より南陽山、南龍院の院山号および500石の扶持、灯明料等を賜わる。

1.愛染瀧姫(愛染明王)の良縁物語があり、「印南愛物語」として親しまれている。

◎おたきの霊水、アズキの秘法などを頂くと心身の病いを救われ良縁を結び智慧福寿を授かって圓滿繁栄の喜びあり、病い抜き不動明王、大家相善神等も祀られ信仰とあわせ歴史的にも、観光的にも情緒豊かである。

A6 白河の観音さん

JR稲原駅下車 車で5分



法泉寺と言う無住寺も正覚寺に移転され、境内に歴史の古い観音堂が残されている。身丈90cmの聖観音像で、「東方を向いた」厄除観音として信仰されている。

毎年旧の初午の日が会式で、当日は、地区はもとより近在からのお詣りで終日にぎわい、餅投げも行われる。



A7 南谷の子授け地蔵さん

JR稲原駅下車 車で5分



明治時代後期、南谷の地から嫁いだ娘が子どもができずに悩んでいた。ある日、娘の両親がこのお地蔵さんをお願いしたところ、子どもを授かることができたという。

現在も子どもを願う夫婦が子どもができるようにと願いを込めてお地蔵さんによだれかけをかける。

A8 南谷の腰切地蔵さん

JR稲原駅下車 車で10分



昔、南谷の湯川直春氏宅に、西牟婁郡富田の侍中山一郎兵衛が、地蔵尊を抱いて訪れ命果てたと伝えられる。腰から下の無い腰切り地蔵尊が奉られている。

かつて亀山城主湯川直春が、富田方面に逃れた際お迎えしてかくまった一人、中山氏の伝承と共に、腰から下の病を癒すと信仰されている。

A9 白蛇大明神・白玉大明神

JR稲原駅下車 車で11分



鎮座は1315年(正和4年・鎌倉時代)。御神体は巳、白蛇、御神木は榎樹(いちいがし・熊野本宮大社より下賜された)。雄大で威厳のある榎樹の雄木、雌木が並んでそびえ立っている。

弘法大師が行脚の途中、「新ナル神が有」と示したと言われており、不事災難、家運商売繁昌など何でも願い事を叶えてくれるという。

メモ欄



切目川浴いのお詣りコース

切目・切目川エリア

海沿いに熊野古道の切目王子・中山王子があり、切目川地区・横川地区など中山間の地域である。18箇所のお詣り地点があり、信仰厚い地域である。

有名な社の周り茂みの中に、実は小さな祠がたくさんある。見落としてしまいそうな素朴な姿だが、今も昔と変わらず里人の想いを受け止め続けている小さな祠を里人に尋ねながら探し当てるのも、お詣りコースの一興である。



B1 うまべの地蔵さん

JR切目駅下車 徒歩15分



昔、この沖で難破して、闇に漂っていた船員達が、一条のピカッと光るものを見つけ、それを目印に泳いで助かったという。朝になって、何かがあるのではと、辺りを探したが、何もなかったが、その場所にお地蔵さんを祀ってお詣りするようになったらしい。

近くに、うばめがしの木があり、いつの間にか、ウマベの地蔵さんといわれるようになった。※また、旅人が、そこで足を休め、いつの間にか、足神さんとも言われ、地蔵さんの傍らに草鞋がかけてあったりするのが見られる。

B3 切目崎の竜宮さん

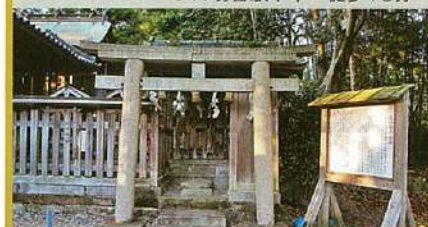
JR切目駅下車 徒歩20分



黒潮洗う景勝切目崎の断崖の地に、海の守り神として大綿津見命豊玉比売命がお祀りされている。竜宮さんと呼ばれ海的神様として操業の安全と豊漁の御利益大なりと、町内はもとより他所からのお詣りも多い。毎年3月28日がお祭りで、餅投げなどでにぎわう。

B4 足の宮さん

JR切目駅下車 徒歩10分



昔、一人の山伏が熊野詣りの途中、島田にたどり着き、足が悪くなり、足を引きずり、とうとう井尻谷辺りで、命絶えたという。里人にねんごろに葬られたが、その埋葬された所に大きな石が出てきた。人々はそのことに霊験を感じ、その石を祭神として祀り、いつの間にか、足痛を治してくれると信仰するようになった。土地の人は「山伏さん」「やまっさん」として、崇めるようになった。

明治四十一年、神社合祀の時、中山王子に祀られるようになり、足の宮さんとして、親しまれている。御本体は名杭にあり、草鞋を供えたり、頂いたりし、今もお詣りが多い。

B2 亀の地蔵さん

JR切目駅下車 徒歩10分



昔、元(本)村のある漁師が亀を助けてやった。後何年かしてその漁師は重い病氣になった。その時、前に助けた亀が来て病氣の治療法を教えた。漁師は半信半疑で亀が教えた治療法を試みた。すると重い病氣は日一日とよくなり、もともとどりの丈夫な体になった。そこで亀のおかげであると信じた漁師は地蔵を建立した。これが「亀の地蔵」で、今でも願いごとの一つは叶えてくれるとお詣りする人が絶えない。

B5 名杭の十一面観音さん

JR切目駅下車 徒歩25分



本尊は、高さ134.7厘の立像で約1,000年近い歴史のある中央の名作と言われ、昭和56年7月13日、県の有形文化財に指定され、昭和57年には京都国立博物館で全面修理もほどこされている。厄除観音として近隣に親しまれ信仰されている。

B6 名杭・足神さん

JR切目駅下車 徒歩20分



B7 すえの千手観音さん

J R 切目駅下車 徒歩15分



昔は観音さんを背負って、熊野詣りをする行者があり、西ノ地にはそんな行者の定宿のような家が4・5軒あった。いつであったか、そうした行者の一人が「もしわしが死んだら背の観音さんを、この土地の熊野参道の見える高い所へお祀りしてほしい」と語った。幾年かしてその行者は西ノ地で病死。里人は行者の遺言どおり、スエの地へ祀ったのが、この観音堂である。

今では1月18日をお祭り日とし、御詠歌や餅まきがある。千手観音さんであるところから商人の信仰が厚く、また手の病気を治してくれるともいわれる。

B8 玉の権現・安産の神様

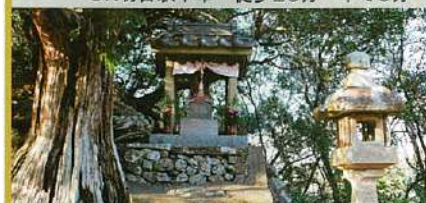
JR切目駅下車 徒歩25分 車で5分



里に伝わる由緒は仁徳の頃と古く、「西ノ地丸山・地宗の森鎮座の御女神を高垣へと遷宮」とある。祝（はふり）の枕辺に、「我は玉の権現と号し、姫安産の神となり高垣へご垂迹」とお告げあり。よって、社を造宮、神名を玉の権現と奉り、以来、里では土地の守り神として、また安産の神様として敬われている。

B9 乳の地蔵さん

JR切目駅下車 徒歩25分 車で5分



いつ頃、そう呼ばれるようになったのかは、定かではないが、乳に関する悩みを持つ人達がお詣りしているようである。真下に切目川が流れ、山里の風が心地よいところである。この隣に、安産の神様の鳥居が見え、共に子育てを守る里神として里人に親しまれている。

B10 イボ薬師さん

J R 切目駅下車 徒歩30分 車で7分



昔、羽六の水野家におりょうという娘が居り、容姿が美しいだけでなく、立居振舞もやさしく、里には珍しい娘と噂されました。しかし悲しいことにこの娘の額に一つの疣があり、本人は勿論、両親はこれを悲しみ、日々思いなやんで居りました。ある夜半、両親の枕辺に威厳のある声で「我は上角の薬師であるぞ、信心するならば娘の疣をなおしてやるぞ」と言われました。大喜びで朝夕信心を続けている中に不思議なことに、額の疣は美しくとれ薬師さまの噂は津々浦々まで流れ、現在もお詣りが多い。※尚お願いするとき「疣をとって下さい」と言ったら駄目で「疣をとれ、とりなさい」と願うそうです。

B11 夜泣き地蔵さん

JR切目駅下車 車で10分



B15 ごんにゃく地蔵さん

J R 切目駅下車 車で15分



印南町横川畑峰地蔵は別名コンニャク地蔵として知られている。江戸時代初期頃から祀られている。祭日は12月20日と旧暦の12月20日の2回ある。当日はコンニャクを御本尊にお供えし自宅に持ち帰ってこれを食べる。これによって祈願成就、除厄開運の御利益大と言われる。祭日当日には町外からの参詣者も多い。祭壇の奥にお座りになるお地蔵様は、赤や白い布のよだれ掛けが重ね重ねて掛けられ、頭までかぶさっていて信仰の厚さの証である。

B16 歯痛の神さん

JR切目駅下車 車で20分



B17 夜泣き地蔵さん

JR切目駅下車 車で25分



B18 秋葉山の火伏せ不動さん

J R 稲原駅より車で25分後徒歩30分



印南町横川と旧南部川村熊瀬川の境界に附近6km四方の最高峰秋葉山がそびえている。尾根伝いに登ること約30分、頂上には火伏せの不動さんが祀られている。

横川の山中菊市氏の御先祖が、江戸時代中頃山伏として信州におもむき、火伏せの不動様をお招きしたものだと言う。昭和の初期、地区の公民館が火災で焼失した際、ここの神木を使用していた玄関の柱だけが焼けずに残っていたと言われ、火伏せの霊験特にあたたかな不動様と祀られている。

毎年4月第1日曜日に地区あげでの会式が行われている。急坂や曲折した尾根道は、半日ハイキングコースとしても最適である。

切目川沿いのお詣りコース

真妻・切目川エリア

印南町内では山間部の地域になり、川又観音などパワースポットや水・森のきれいな地域である。歯の観音、子授け地蔵、腰神さんなど町内外を問わず訪れる人がある。今も途切れずに人々が尋ねてくるのにはそれなりの理由がある。
名前の由来や逸話を確かめながら辿るうちに、自然と心も体も癒されてゆくのである。



切目川沿いのお詣りコース
各お詣り地点間の移動距離

B12	歯の観音さん	0.6km
B13	子授け地蔵さん	2.2km
B14	室川の観音さん	2.8km
B19	おつぼさん	1.2km
B20	オの川の観音さん	2.3km
B21	ほろし神さん	2.1km
B22	腰神さん	3.4km
B23	西神ノ川のお薬師さん	4.5km
B24	上洞の足神さん	7.3km
B25	川又の観音さん	

B14 室川の観音さん

御坊南海バス古井バス停下車 徒歩40分



その昔、この境内の奥の在所においちと言う評判の器量よしの娘がいて、西牟婁の秋津より山仕事に來ていた眉目秀麗な清吉と言う美青年といつしか恋に落ちいるが、おいちの両親の怒に触れるところとなり、二人の仲は引きさかれる……。

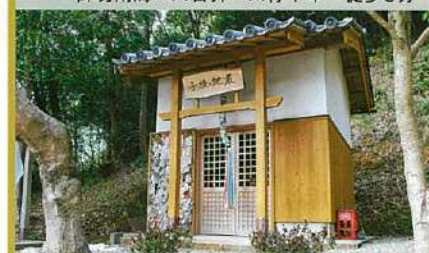
或夜ひそかに二人は観音様にお詣りし、おすがりの祈願を捧げ想いあまって堂下の淵に身を投げてしまった。

東の空の白む頃、里人等に滝壺より打ち上げられ失神した二人が発見された。両親と里人は、観音様に一心におすがりして懸命の介抱を続けたところ、不思議や幾ばくもなく元どおりに回復、やがて広大無辺な観音様の結縁の御心に添って夫婦の契りをなしたと言う。

以来、結縁観音として良縁をさずかるようにと善男善女のお詣りが多い。境内には滝見橋もかけられ、愛染地蔵尊も岩屋の中に祀られている。

B13 子授け地蔵さん

J R 稲原駅より車で10分
御坊南海バス古井バス停下車 徒歩5分



古くより附近の人々から「子授け地蔵」と呼ばれ、子授け、子どもの無病息災に霊驗あうたかと言われる。この地方では、嫁をもらいまた他所へ嫁に出た娘が、かなりの月日がたっても身ごもらないときは、嫁は嫁自身で、また嫁いだ娘の両親が、このお地蔵さんに日参すれば子どもを授けてくれると言う。

B12 歯の観音さん

J R 稲原駅より車で8分
御坊南海バス古井バス停下車 徒歩5分



もともとは道標として、道端に据えられたものである。
右あわそ、左川又の文字が見える。

観音像の頭部が右に傾き、頬を手の平で支えている姿から、いつの間にか、里の人々から、歯痛の観音さんと呼ばれ、親しまれるようになった。

温かくもあり、ユーモラスにも見え、祠の前に立つと心癒される感じである。



B19 おつぼさん

御坊南海バス見影バス停下車 徒歩5分



元弘元年12月、大塔宮護良親王が御供の衆9人とともに熊野詣の山伏姿に身をやつし熊野落ちされた時、切目王子で権現の夢のお告げで熊野落ちを断念、切目川沿いに十津川の方へ向かわれたが見影の村はずれで、お供の一人が突然病死、この地に葬られたと言う伝承があった。

昭和38年農道工事中、大きなカメの中に葬った墓が発見され、大塔宮の伝承が事実となった。

地区民は、悲しい最後をとげられたお供の方の冥福を祈るためこの地に見影野宮を斎き奉った。

以来、毎年4月3日にお祭りを行うこの付近では、カメのことをつぼとも言い、いつからか「おつぼさん」と呼ばれるようになり、由来を尋ね、無病息災を願うお詣りが絶えない。

B20 才の川の観音さん

JR稲原駅より車で10分



才の川観音堂は、室町時代初期に創建され、恵心僧都作と伝えられる聖観世音菩薩を本尊として祀られている。

応永年間、諸国に大早魃による飢饉と共に疫病が蔓延し、当地方にも死者が続出した。飢えと病に悩まされた里人は、平素から信仰の才の川観音に詣で、夜を徹して悪病平癒と五穀豊穡を祈願した。この願いが通じたのかその年より疫病も終息、五穀も豊作になったと伝えられ、以来「厄除観

音」として、遠近から人々のお詣りが多くなった。徳川時代中期に至り旧2月初午の日に、報恩感謝と厄除け縁結び祈願の会式が営まれ、その後毎年この日を会式の日として現在に至っている。当日は、終日絶えることのないお詣りでにぎわい、「厄払い、縁結び、成就」の餅投げも行われる。

B21 ほろし神さん

JR稲原駅より車で15分/御坊南海バス松原バス停下車 徒歩3分



その昔、当地里人にほろし(湿疹)が蔓延。その苦しみを見かねた真妻神社の宮司川口翁が自分の持山の小高い丘に立て籠り、ひたすら病いの全快を祈られた所、不思議に蔓延していたほろしも快癒。これより里人は小祠をつくりこの丘をほろし神の社として崇めるようになり、この話を伝えきたほろしに悩む人々がお詣りするようになった。

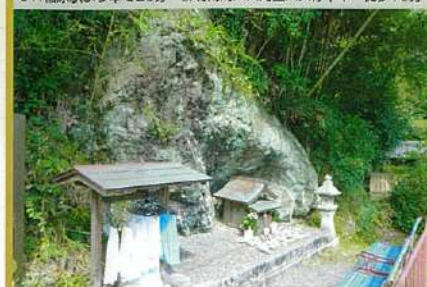
昭和30年信仰者の一人田端隆太郎さん(南部川村)の協力を得て現在のほこらを再建。毎年4月第1日曜日を祭日ときめ、里人によりさやかながら餅なげの行事が行われている。

湿疹の患部をぬぐった半紙又は氏名年令を書いた晒布を境内の木の枝に結びつけると願いが叶えられると伝わる。



B22 腰神さん

JR稲原駅より車で20分 御坊南海バス月生バス停下車 徒歩15分



護良親王が切目川沿いの険しい道を、軍道までおこしになった時、乗っていた馬が腰をいためて動かなくなり、ついにこの地でたおれた。一行はやむなく近くに葬り、徒歩で三里峯越えをなさった。その時、村人たちは宮様であることを知らなかったが、後にそのことを知ってせめて御乗馬の霊を慰めたいと、ちょうど近くにあった馬に似た岩を御神体として祠をつくりおまつりした。その後いつごろからかわからぬが、細い青竹を曲げて作った竹馬をもってお詣りすると腰痛がなおるという風習があったが、現在は腰の病気に悩む人が小石に願いごとを書き、お詣りすることが多い。旧2月7日が腰神さんのお祭で、地元講中で餅投げをする。

B23 西神ノ川のお薬師さん

御坊南海バス西神ノ川バス停下車すぐ

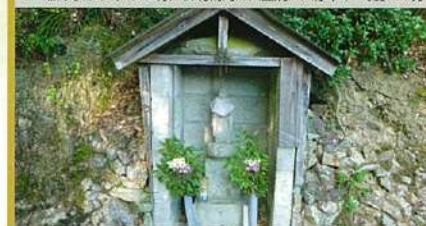


切目川の支流西神ノ川の合流点に亀乗山神濃薬師堂と呼ばれるお堂がある。このお堂の由来は、神亀元年(724年)如来様が亀に乗ってお姿を現したものと伝えられている。協立は十一面観世音菩薩と子安地藏尊で、観音堂とも呼ばれている。

古くから里人はここにお詣りして、難産より免れたと言われ又、言語障害や、耳、目の病気を治して下さる靈験あらたかなお詣り所として信仰されている。

B24 上洞の足神さん

JR稲原駅より車で30分/御坊南海バス上洞バス停下車 徒歩10分



建立の時期については、定かではないが、戦国時代、大塔宮熊野落ちの際、この地区を通過したと伝えられるように、この辺りは、昔から落ち武者などの旅人も多かったことが考えられ、旅人の足の守り神として、道中を癒していたのだろう。

B25 川又の観音さん「菱の滝」

JR稲原駅より車で40分 御坊南海バス日裏バス停下車 徒歩30分



その昔熊野詣での修験者がこの谷の滝にうたれて修行中ふと見ると滝つぼに光るものあり、手にとれば一寸八分の金の観音さんであった。もったいなしとほこらを設けて祀ったのが現在の奥の院であるといわれる。また室町初期の作といわれるケヤキ材の観音像あり篤信の老婆が熊野より背負い来て安置したとの伝説もあり。

厄除けの観音として崇められるとともにこの地深山幽谷滝(菱の滝)あり、泉ありて清冽な水が湧出している。

この水を汲みて目を洗えば眼病がよくなるとお詣りする人も多い。

◎毎年4月18日に会式が行われる。